

創価大学

[SOKA UNIVERSITY]

先輩たちの支援のもと、 自分で未来を描き、 きり拓く力を養う キャリア教育



対面とオンラインで同時開催した就活合宿の様様

2020年に全世界を襲ったコロナ禍は、学生の就職活動や留学にも大きな影響を及ぼした。この環境下で創価大学は学生に対してどのようなサポートに取り組み、学生たちはどのようにこの困難を乗り越えようとしているのだろうか。キャリアセンター担当者と、困難に直面した当事者である就活生、サポートスタッフの学生に話を聞いた。

取材・文／伊藤敬太郎

伝統的に先輩と後輩の つながりが強い

創価大学は8学部10学科を擁する総合大学(図1)。スーパーグローバル大学創成支援(タイプB)に採択されており、学生は学部を問わず積極的に海外留学に挑戦している。

また、学内の先輩と後輩、あるいは卒業生と在学生とのつながりが伝統的

に強いことも同大学の大きな特色のひとつ。2004年にキャリアセンターが開設されて以降、CSS、RSS(詳細は以下)といった学生スタッフが後輩を支援する体制を整え、毎年、先輩にサポートしてもらった学生が今度は後輩をサポートするという循環が繰り返されている。

この仕組みが創価大生のキャリア観の醸成、学生生活の設計、そして就職に大きく貢献していると、キャリアセンターの佐藤伸幸氏は話す。

「就活のタイミングでサポートを始めるのではなく、1年次から、自分が何をやり



キャリアセンター
キャリア・就職支援課
佐藤伸幸氏

たいのか、そのために大学でどういう経験を積みたいのかを学生全員が考える機会を提供しています(図2)。1年次のキャリア教育科目『キャリアデザイン基礎』はCSSがスタッフとして参加。担当する1年生一人ひとりと対話を重

図1 創価大学の学部・学科構成

経済学部	経済学科
経営学部	経営学科
法学部	法律学科
文学部	人間学科
教育学部	教育学科
	児童教育学科
国際教養学部	国際教養学科
理工学部	情報システム工学科
	共生創造理工学科
看護学部	看護学科

CSS

(キャリアサポートスタッフ)

進路が決定した4年生が結成する、1年生のキャリアデザインを支援するグループ。CSSのメンバーは「キャリアデザイン基礎」(1年次秋学期)の授業サポート、1年生の面談、1、2年生対象のキャリアイベントの運営などに主体的に関わる。

RSS

(リクルートサポートスタッフ)

進路が決定した4年生が結成する、3年生の就活を支援するグループ。RSSのメンバーは「キャリアビジョンI」(3年次秋学期)の授業サポート、就活生への面談、卒業生を招いた就活イベントの運営などに主体的に関わる。

ね、キャリアデザインを支援します」

RSSは就活支援イベントなどを開催するほか、担当する就活生に対して、情報提供や面接、自己分析などについてのアドバイスを行う。

サポートスタッフは コーチングスキルを習得

CSS、RSS共に自分の経験を上から押し付けることはしない。全員が研修でのトレーニングを通してコーチングの手法を学び、後輩に寄り添う伴走者としての役割を担う。

「『自分の未来を自分の力できり拓く力をつける』というのが本学のキャリア教育の考え方。決めるのは自分ですし、行動するのも自分。ただし、一人ではありません。応援してくれて、一緒に未来をデザインしてくれる先輩がいる。CSS、RSSは学生にとってのロールモデルでもあります。身近にそういう先輩たちがいる環境が、学生が自律的に考え、行動することを後押ししています。だから創価大生は逆境に強い。それも伝統として受け継がれているもののひとつと言えます」

では、コロナ禍のなか、学生たちはどのような困難に直面し、どのように克服していったのだろうか。「感染拡大によって企業の採用活動が中断したことの影響は大きかったですね。結果として採用活動が2か月ほど後ろ倒しになりましたが、渦中にいる段階ではこの先どうなるのかが見えていませんでしたから、就活生の戸惑いは大きなものがありました。また、本学は長期留学をする学生が多いのですが、留学先から帰国せざるを得なくなった、あるいは留学できなくなった学生も多数いました」

キャンパスへの入構もできなくなり、就活生たちは例年にない不安を抱えたまま孤独な状況に追い込まれていた。この困難をキャリアセンターと共にサポートしたのも、先輩や卒業生たちだった。

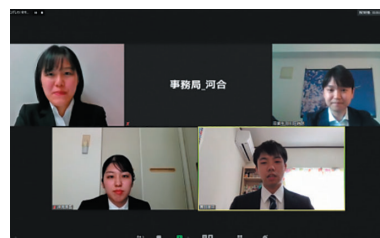
対面の面接を中断していた企業が

図2 創価大学のキャリア教育とCSS、RSSのサポート

	1年次	2年次	3年次	4年次
	夢を具現化 (進路の方向性を仮決定)	進路の方向性を 本決定 (情報収集・就業体験)	夢の実現に向けて 準備	選考試験等を受けて 進路決定
キャリア 科目	キャリアデザイン基礎 ※なりたいたい自分を考える	インターンシップ など	キャリアビジョンI ※就職活動に 必要な知識を学ぶ	キャリアビジョンII ※卒業後のキャリアデザイン など
イベント	Design Your Dreams ※卒業生との懇親会 など	Bridge to the Future ※1day就業体験 など	就職決起大会 就活フェスタ	学内企業説明会 など

■ CSSがサポートしている授業や主催しているイベント ■ RSSがサポートしている授業や主催しているイベント

図3 海外の卒業生も参加した「創大就活Spring Camp」



2020年5月、キャリアセンターは就活生へのオンラインサポートの第一弾として「創大就活Spring Camp オンライン面接対策会」を開催。アメリカ、シンガポール、台湾など海外で働く人たちも含めた卒業生たちが、コロナ禍の就活に挑戦する後輩たちを励まし、オンライン面接対策のアドバイスをするために参加。就活生側は北海道から九州まで地元に戻っていた学生も参加した。

オンライン面接を始めたことで、キャリアセンターは迅速に対策をスタート。緊急事態宣言発出後の5月にはオンラインの面接対策イベントを開催。その後も例年対面で開催していたキャリア、就職関連のイベントをオンラインで開催し、コロナで物理的には隔離されていた就活生と先輩、卒業生たちをつなげていった(図3)。

コロナ禍でまさに試された 自分自身で未来をきり拓く力

「企業の採用動向に関する情報を提供するのには私たちキャリアセンターの役割。コロナ禍でもむしろ採用が活発化した業界もありますし、航空業界や飲食業界のように採用がストップしてしまった業界もあります。そのような状況を正確に伝え、航空業界を志望していたような学生には、次の目標を決めるための相談にも乗りました。そこで大事にしたのは就活生の感情をケアすること。ただし、厳しい状況であっても、私たちもRSSも就活生が自分で考え、自分で決めることを重視して

コミュニケーションしました。そこはコロナ禍でもブレることはありません。就活生もそれに応えてくれました」

留学志望の学生も事情は同様。3年次、4年次に留学を予定していた学生たちは、留学の予定を変更して就活に切り替えるか、卒業を延ばしてでも留学ができるようになるのを待つかといった選択を迫られた。

「留学ができなくなった学生のなかには、自分の目的を見つめ直し、感染の少ない地域での地方創生インターンシップに目標を切り替えた例もあります。この状況下でどのような選択肢があり得るか、本人とキャリアセンター、CSS、RSSが一緒になって考えていきました」

コロナ禍はさまざまな困難を学生にもたらした。しかし、このような状況を受け止め、自分で打開策を考え、前進する力を養成してきたのも創価大学のキャリア教育。一人では厳しくても、先輩たちの励ましがあれば力を発揮できる。その意味では、創価大生の「自分の未来を自分の力できり拓く力」が試された1年だったと言えるかもしれない。

コロナ禍の就活“就活生”はどう工夫した？



自作の就活ノート

やるべきことはやっていたのでコロナ禍でも自信はあった

就職活動を本格的にスタートしたのは、2019年10月です。キャリアセンター主催の就活合宿に参加したことがきっかけでスイッチが入りました。

そこから説明会やインターンシップに積極的に参加。2月には卒業生訪問や



法学部4年
中 萌花さん

1年1月から2年9月まで法学部独自のプログラムでイギリス・バッキンガム大学に留学。3年秋から就職活動をスタートし、NECソリューションイノベータ(株)に内定。現在はRSSのメンバー。

グループディスカッションの練習、エントリーシートのチェック、自己分析など活発に活動を始めました。合宿スタッフの先輩方には本当にいろいろとサポートしていただけて感謝しています。

当初は消費財メーカー志望だったのですが、合宿スタッフの先輩のアドバイスでコンサルティング業界の学部別相談会に参加し、それがきっかけで自分のやりたいことを見つめ直し、1月にITコンサルに志望を切り変えました。

1月、2月にもコロナの影響は始まっていましたが、3月にはまだ対面の面接も行われていました。完全にオンライン面接になったのは4月からです。

オンライン面接の場合、見られるのは首から上ですから、声や表情を気持ちよくすることを意識しました。鏡を見たり、録画したりして繰り返し練習しました

ね。目線の置き方も難しいんです。画面で面接官の顔を見てしまうと相手にはずっとうつむいて見えますから、なるべくカメラを見るように気をつけました。また、移動がないのは楽なのですが、ずっと部屋にいたので気持ちの切り替えが難しい面は確かにありました。

コロナ禍で例年とは違う状況は多々ありましたが、やるべきことはやっていたので、なんとかなるという自信はありました。就活によって成長できた面も大きいです。以前は自分だけでなんとかしてしまっていたのですが、人を頼れるようになりましたし、努力や工夫が成果につながったことで、改めて自分に自信をもつことができたと感じています。どういふ状況であれ、就職は自分が納得できることが大切。RSSとして後輩にもそのことはしっかり伝えています。

コロナ禍の就活“先輩”はどう支援した？

オンラインでも相手に寄り添えるようコミュニケーションを工夫

私自身はインドのデリー大学への留学から帰国後、4年生の2019年5月から就職活動をスタートし、11月に志望していた日本マイクロソフト(株)の内定を得ることができました。内定後は、同期の就活を自分なりに支援していましたが、2020年7月に17期RSSに応募しました。創価大学の環境、RSSや卒業生の先輩方に恩と感謝を感じていたので、今度は自分が後輩に返したいと思ったんです。

3年生のキャリア教育科目『キャリアビジョンI』のサポートや就活イベントの企画・運営などがRSSの主な役割です。ただし、それにとどまらず、授業で自分が担当することになった就活生は、就職が決まるまで個別にサポートします。

コロナ禍では就活生は孤立してしまいがちで、周囲がどのような活動をしているのかもわからない。一方、私たち

RSSも就活生の状況がつかみにくい面があります。だからこそオンラインであっても頻繁にコミュニケーションを取り、つながり続けることが大切です。自分で行動できる就活生もいれば、何をしたいのかわからない就活生もいるので、一人ひとりの事情を傾聴し、相手に寄り添うことを第一に考えました。

オンラインでも対話の内容は対面と変わりませんが、どうしても距離感が生まれやすいです。だから、その点をどう解消するかは大きな課題でした。具体的にはアイスブレイクを入念にやって相手をリラックスさせたり、言葉や表情から共感を強く示したりということを意識してコミュニケーションをとりました。

就活生一人ひとりがどのような状況にあるか、オンラインでのサポートでどのような課題があるかといったことはRSS



経済学部4年
丸山正人さん

17期RSSの執行部メンバー。2年次にダンスの世界大会で優勝した経歴の持ち主。自らの就職活動時にはマイクロソフトで働く卒業生のサポートが大きな力になった。

のメンバー内でも情報交換や議論を繰り返しました。また、中心メンバーとしてRSSの組織づくり、信頼関係づくりも注力したことのひとつです。まだまだ就活は続きます。これから後輩にしっかりと伴走していきたいと思っています。